

青森県立高等学校魅力づくり検討会議（第8回）概要

日時：令和7年2月20日（木）

15:00～16:20

場所：ねぶたの家 ワ・ラッセ

1階 交流学習室

<出席者>

香取 真理 議長、高橋 英樹 副議長、石岡 由美子 委員、岩川 亘宏 委員、
大瀬 幸治 委員、葛西 孝之 委員、菊地 建一 委員、木村 和彦 委員、
小泉 朋雄 委員、近藤 鉄也 委員、中村 拓也 委員、中村 佐 委員、
花松 憲光 委員、前田 済 委員、村本 卓 委員、山本 隆悦 委員、
横岡 千和子 委員、米内山 裕 委員

1 開会

2 審議

青森県立高等学校魅力づくり検討会議における検討結果報告書（案）について
事務局から、資料1～2により説明した。

資料1について、修正等がないか議長から委員に意見を求めたが、委員から意見はなく、承認された。

議長から「只今御承認いただいた検討結果報告書（案）については、『案』を取った上で、この後、県教育長に提出することとしたい。」との発言があった。

検討会議の審議を終えるに当たり、議長から各委員に所感を求めた。

委員から、次のような発言があった。

- 本検討会議は、様々な立場の委員から、現場の課題等を聞く貴重な機会となった。高校の魅力づくりは、人づくり、地域づくりである。本検討結果報告書を踏まえ、令和10年度における社会の変化に対応しながら、高校の魅力づくりを進めてほしい。
- 様々な立場の委員の意見を聞いて気付くことがあった。本検討結果報告書が未来ある子どもたちのために活用されることを期待する。
- 本検討会議への出席を通じて、未来の青森県の教育の在り方を改めて考えることとなり、大変勉強になった。本検討結果報告書を踏まえ、今後の青森県の教育をより良いものにしてほしい。

- 本検討会議に出席し、学校が発信できていない魅力が多くあるのではないかと感じた。各校や青森県の魅力を生徒へ十分に伝えられるよう、既存の枠組みにとらわれない学科や教科・科目等、新たな発想の学びの場を設置することが必要である。本検討会議で出された意見が、青森県の課題解決に資する人財育成等、青森県の未来につながることを期待する。
- こどもたちを取り巻く教育環境はここ数年で大きく変化した。あと10年も経つと更に変化することが予想される。こうした環境の変化に柔軟に対応しながら、本検討結果報告書がこれからの青森県のこどもたちのためになることを期待する。
- 本検討結果報告書の「おわりに」において、学校における働き方改革の推進について提言されているが、画一的な働き方ではなく、教員の業務に関する主体性を尊重し、教員のモチベーションを向上させるような環境づくりに力を入れてほしい。
- 本県の基幹産業に関する学び、職業教育の重要性と必要性がしっかりと示されたことを嬉しく思う。職業教育を主とする専門学科の更なる魅力化を図るとともに、地域の発展に貢献できる人財育成に取り組んでいきたい。
- 県立高校の志願倍率の低下や、全国学力・学習状況調査における本県中学校の順位低下が見られる一方で、同調査におけるウェルビーイングに関する質問項目の回答を見ると、本県の生徒が充実した教育環境の中で勉強することができているものと感じる。高校教育を受ける機会を確保しながら、生徒数が減少していく中であっても教育環境の更なる充実が図られるよう、小・中学校と高校が連携し、社会で活躍できる人財を育成していく必要がある。
- 本検討会議に出席し、高校の魅力づくりについて考える貴重な機会となった。青森県の魅力にこどもたちが気付き、夢と希望を持つことができるような教育環境となることを願っている。
- 学校視察に参加した際、生徒と教員がお互いに信頼し合っている様子を見ることができた。生き生きと日々の教育活動に取り組み、生徒から尊敬されるような教員が増えることで、本県の教育の更なる充実につながるものと考えている。また、他の委員の「世界に出て行く人財を育ててほしい」という発言が忘れられない。そういった県民の願いも大事にしてほしい。
- 本検討会議への出席を通じて、高校教育の質の向上のためには環境づくりが重要であることを改めて認識することとなり、大変勉強になった。本検討結果報告書は総花的な内容となっているが、本県の教育行政に活用されることを期待する。
- 学校はテストで点数を取る力のみを身に付けさせているのではなく、人と関わる力、話し合うことや聞くこと等、社会で生きていくために必要となる力を身に付けさせる重要な役割を担っている。今後、教育現場がますます複雑化していくことが予想されるが、生徒が、この学校で学んで良かったと卒業時に笑顔になれるような学校であってほしい。また、青森県を離れたとしても、ふるさとを思う気持ちを持ち続けてほしいと願っている。
- 大規模校、小規模校のどちらも様々な課題がある中で、生徒一人一人に対応する教員の誠意というものを感じた。本検討会議で挙げられた課題を踏まえながら、今後の学校配置を検討してほしい。また、各校の魅力や特色ある教育活動等の情報を中学生や地域住民に発信していくことも重要である。

- 本検討結果報告書を踏まえ、今後どのように実践されていくのか関心を持ち続けていきたい。また、教員が十分に配置され、子どもたちが手厚い教育を受けられるような環境づくりが進められることを期待する。
- 子どもたちの将来の選択肢をいかに増やしてあげられるかが重要であり、学びたいという思いや、希望する仕事等の夢を持った生徒の可能性を広げてあげる必要がある。また、子どもが挫折から立ち上がるためには、中学校や高校での経験が重要であり、そのための学びを多く提供する必要がある。
- 本検討会議では、各委員がそれぞれの立場から意見を述べ、魅力ある高校づくりに関する熱心な議論が進められてきたと感じる。本日をもって検討会議は終了となるが、今後検討が進められる具体的な学校配置等の対応について関心を持ち続けていきたい。
- 一番重要なことは、全ての生徒の学習機会の保障である。魅力づくり以前に、不安がないことが重要であり、安心して通える学校づくりを行った上で、本県の子どもたちが学びたい場所で学びたいことを学べる環境づくりを進めるとともに、子どもたちの学びと成長を支える仕組みづくりが進められることを期待する。そのためにどのような教育環境が必要なのか、人的な対応はどうあるべきなのか、様々な教育制度をどのように活用するのかなど、十分な検討を経て、具体的な対応を進めてほしい。特に、本検討結果報告書の「おわりに」で提言された3点については、その内容をしっかりと踏まえた上で、今後の取組に生かしていただきたい。
- 各委員の真摯で熱意を持った姿勢に心を打たれた。本検討結果報告書では、各委員の共通認識として、子どもの成長と幸福を第一に考え、そのためには、ICTの活用や教員の働き方改革も含め、学校、地域、家庭、産業界等の県全体が一丸となって取り組むことが重要であるとされており、魅力ある高校づくりに関する望ましい方向性を示すことができたものと考えている。また、魅力ある高校づくりが、人づくり、地域づくりとなり、青森県の将来につながるものと考えている。

検討結果報告書を取りまとめるに当たり、議長から「委員の皆様の御協力により、多角的な視点から審議、検討を重ねることができた。県教育委員会においては、本検討結果報告書について、県民の皆様へ分かりやすく周知するとともに、本検討結果報告書にまとめられた様々なトピックの中から、本県の子どもたちのために重点的に取り組むべきことは何かを改めて検討した上で、魅力ある高校づくりを更に推進するための諸施策に具体的に取り組んでいただきたい。」との発言があった。

3 検討結果報告書提出

議長から教育長に検討結果報告書が手交された。

教育長から謝辞があった。

4 閉会